

ドクターへりが2機 飛んでいる青森県



▲弘前大学病院ヘリポートから離陸したドクターへり
(この白地に赤いストライプのデザインは日本国内ドクターへり共通です。)

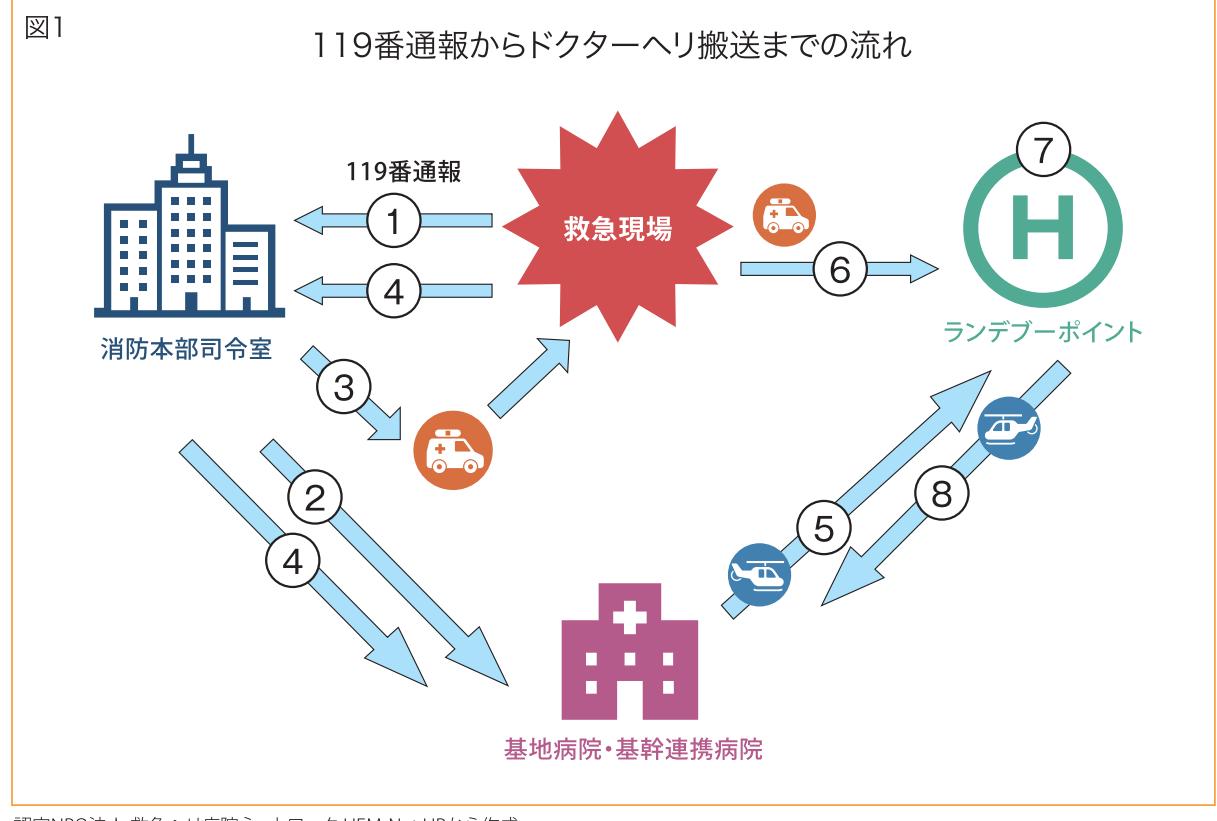
弘前大学医学部附属病院
高度救命救急センター
センター長／教授 花田 裕之

青森県ではドクターへり
が青森県立中央病院と八戸
市立市民病院に配備され、2
機体制で365日休みなく
青森県内をカバーしていま
す。皆さんもドクターへりを
見たことがあるのではない
でしょうか。青森県の地域医
療に欠かせないドクターへ
りの特徴や役割について述
べたいと思います。

ドクターへりはいつから
始まつたのでしょうか。

ドイツ、アメリカ、スイス
が1970年代の初めに導入
しました。日本で初めてドク
ターへりが千葉北総病院で運

119番通報からドクターへり搬送までの流れ(図1)。



ドクターへりがなぜ必要なのでしょうか。

ドクターへりという英語はありません。いわゆる和製英語なのですが、ドクターへりを乗せて現場に行くヘリコプターという意味でその特徴をズバリと示している名前です。初期治療に必要な物品や薬品とともにドクターとナースを現場に届けるためのシステムがドクターへりです。救急車が患者さんを搬送することが主目的であるのに対

航されたのは、それから30年後の2001年です。2007年にドクターへり特別措置法が制定されて全国的に普及が始まり、青森県では2009年3月から八戸で運航が始まりました。その後2か月ずつ青森と八戸が交代する共同・分担運航を経て2012年から2機体制で青森県全体をカバーしています。

ドクターへりという英語はありません。いわゆる和製英語なのですが、ドクターへりを乗せて現場に行くヘリコプターという意味でその特徴をズバリと示している名前です。初期治療に必要な物品や薬品とともにドクターとナースを現場に届けるためのシステムがドクターへりです。救急車が患者さんを搬送することが主目的であるのに対

して大きな違いがここにあります。患者さんと接触した時点から治療が始まるところが、ドクター・ナースデリバリー・システムであるドクターへりの最大のメリットです。速度は200 km/h程度で新幹線よりも遙いくらいの速度ですが、直線的に空を飛ぶことで搬送時間が短縮されるメリットももちろんです。青森県のように、総合病院から離れた医療過疎地域が多いところではより有用です。青森県では緊急的な心臓、頭の手術やカテーテル治療（脳卒中や心筋梗塞で詰まっている血管を治療して血液が流れるようにする治療）が行える病院は限られていますが、ドクターへりは治療

ができるない病院からできる病院までの患者さんの搬送も行います。病院が集約化されている青森県にはなくてはならないシステムと言えます。